

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	よこはましりつみなみこうとうがっこう				②所在都道府県	神奈川県
27～31	① 学校名	横浜市立南高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	平成27年度より附属中学からの進学者を含め全学年が揃い、高校各学年5学級在籍数 596名である。	
高校普通科	198	198	40		436		
⑥研究開発構想名	国際都市横浜発 次世代ビジネスリーダーの育成						
⑦研究開発の概要	横浜の地域性を活かし、横浜市立大学や地元企業等の協力のもと、「総合的な学習の時間」を中心に、東南アジア地域を主たるフィールドとして、持続性のあるソーシャルビジネスによって社会の課題を解決するアイデアを構想し、実践することができる次世代ビジネスリーダーの育成に資する研究開発						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>国際都市横浜の地域性を生かし、大学やグローバル企業、国際機関の支援を得て、貧困や資源開発、環境保全など東南アジアの課題解決を目的としたソーシャルビジネスを構想する探究活動を通して、創造力ある志の高いグローバル人材を育成する。</p> <p>○多様な文化や価値観を理解し、グローバルな視点で課題をとらえる生徒を育成する。</p> <p>○提案型の課題研究を進め、主体的に学ぶ生徒を育成する。</p> <p>○将来、世界のために自分の力を役立てようとする意欲のある生徒を育成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>平成24年に中高一貫校として改編された本校は、世界で通用する豊かな人間性と幅広い教養を兼ね備えたグローバルな人材を育てる学校を目指しており、附属中学での課題探究型学習の成果も現れはじめている。そのミッションを実現するために生徒が主体的に学び自ら探究する力を育てる必要がある。グローバル社会での将来像を描き、横浜から日本を牽引しようとする志の高い生徒を育成する必要がある。</p> <p>(ア) 多様な文化や価値観を体験的に理解することで、グローバルな視点で課題を捉える力が向上する。「立命館アジア太平洋大学研修」「テンプル大学アカデミックプログラム」「国内外イマージョン研修」など、外国の学生とディスカッション等をして交流する機会を設ける。授業においてもグローバルな視点で課題を捉えるよう全教科でカリキュラム開発を進める。</p> <p>(イ) 「調査力」「提案力」を養い、批判的・論理的な思考法を身に着けることで学習の質が向上する。総合的な学習の時間「TRY&ACT」では東南アジアを主たるフィールドとして、持続的発展を図るソーシャルビジネスについて構想し提案する課題研究活動を行う。海外フィールドワーク等も取り入れながら、「調査力」「提案力」を養うとともに、全教科でアクティブラーニングに取り組み、自ら学ぶ意欲ある生徒を育成する。</p> <p>(ウ) 「グローバルリーダープロジェクト」の開発により、キャリアイメージがグローバルに拡大する。「TRY&ACT」の課題研究の深化を希望する生徒を選抜しグローバルリーダープロジェクトとして展開する。国際社会で活躍する人との接触により、キャリアイメージが拡大し世界を舞台に活躍しようという意欲が高まる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>(ア) 探究活動発表会(2学年対象)を毎年2～3月(平成28年度～)に実施する。</p> <p>(イ) 研究紀要の発行とSGH指定校との連携を図り、相互の交流と先端的な取組に関する情報を共有し、積極的に他校を訪問し、発表を行う。</p> <p>(ウ) 学校ホームページに「TRY&ACT」のサイトを開設し、実施状況を世界に向けて発信する。</p>					

<p>⑧ -2 課題研究</p>	<p>(1) 課題研究内容 総合的な学習の時間の名称を「TRY&ACT」として、「異文化理解に基づいて、貧困や資源開発、環境保全など東南アジアの諸課題」を主なテーマとし、その解決のためのソーシャルビジネス等のプランを提案する活動を行う。 (ア)「TRY グローバル」・・・1年生の段階では、東南アジア諸地域の実態を理解するとともに、生活様式や価値観など異文化理解を深める調査研究活動を行う (イ)「ACT グローバル」・・・2年生では、1年生の探究活動の成果を踏まえ、JICA 横浜や横浜市立大学などのグローバル社会で活躍している専門家からのアドバイスを受け、「貧困や資源開発、環境保全」などのテーマを設定し、その課題を解決するためのアイデアやビジネスプランを提案する。 (ウ)「ACT グローバルリーダープロジェクト」・・・3年生でこれらの研究活動を引き続きすすめる生徒 40 名については、横浜市立大学国際総合科学部系等の支援を受けて、課題研究を深める。また、研究成果を公表する。 (エ) 国内外におけるイマージョン研修では、コミュニケーション力と英語での論理的思考力を向上させるとともに東アジアの諸課題を発見させ、次世代ビジネスリーダーとしての資質を養い、東アジアにおけるこれからのビジネスの在り方を探究する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 (ア)「TRY グローバル」は1年生全員を対象に、主として土曜日に実施する。地球規模的な課題についての講演やワークショップを中心にグループで研究を進める。APUでの研修は、英語でディスカッションやインタビューを行い、情報収集と分析を行い、英語での発表やポスターセッション等で評価を得る。 (イ)「ACT グローバル」は2年生全員を対象に、テーマを絞り込んだ探究活動を行い、文化祭で発表を行う。さらに海外研修旅行において現地企業やその社員の取材調査やリサーチ活動を行い、英語での発表と事後学習として、レポートを作成し評価を得る。 (ウ)「ACT グローバルリーダープロジェクト」は地球規模的な課題への指向性が高い3年生中心に40名を選抜し、国内外のフィールドワークやインターシップを通して、個人の探究活動をさらに深め、課題論文の作成や大学等での研究発表を行い、評価を得る。 (エ) イマージョン実習では、シンガポールや立命館 APU において企業人や学生との英語でのディベートやディスカッションなど通じて東アジアの現状を認識し、諸課題を発見する。その過程のなかで多文化共生の在り方や情報収集や資料の作成などの手法を習得する。事後報告会を行い、外部評価を得る。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特例の適用は予定していない。</p>
<p>⑧ -3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 (ア) 全教科で論理的思考力及びコミュニケーション力を育てるための研究開発を行う。 (イ) 海外大学進学を目指す生徒の支援のための指導法の研究をする。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 (ア) 中高一貫教育校の特例を活用して、高校の国語総合、数学 I、数学 A、コミュニケーション英語 I の一部を中学3年生で履修する。</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の実施内容・実施方法 (ア) カナダの姉妹校との相互訪問の交流を継続、活性化する方法の検討を行う。 (イ) 海外留学生受け入れ制度整備による外国語でのコミュニケーションの日常化を図る。 (ウ) 連携大学教員や大学院生による研究の進め方、論文作成方法に関する指導を行う。 (エ) 「TRY&ACT」の WEB サイトを開発し、学校情報や研究成果を発信する。</p> <p>(4) 幹事校としての取組（該当する場合のみ記入） なし</p>
<p>その他 特記事項</p>	<p>○ 1、2年生は全員、3学年時は40名程度の生徒をSGH課題研究の対象とする。 ○ スーパーグローバルハイスクール推進委員会を設置（以下） 担当副校長、企画部研究所属の教員、国際部所属の教員、経理担当の事務職員</p>